

No.514 日野の自然 5月号

発行日野の自然を守る会
日野市東豊田3-15-12(片岡方)
電話 042-582-0696
振替 00100-0-183738
ホームページ <http://hinonoshizen.sakura.ne.jp>

発行人 内川 武
印刷 日野台印刷株式会社
日野台1-16-3

毎月1日発行 1部300円

シリーズ 日野の生きもの

生態系保持空間の生き物 (その3 昆虫)

生態系保持空間で見られる昆虫達

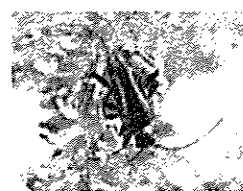
森川正昭

私は本誌第442号の“特集日野の蝶”の中で、河川敷は蝶の聖域(サンクチュアリー)と題し、河川敷には河川敷特有の蝶など、多くの種類の蝶がいる事を述べたが、それは国土交通省が、生態系保持空間として、30有余年の間、人の手を加えない自然を守って来たからで、私はこの生態系保持空間ほど、日野市内で豊かな自然が残っている場所はないと思っていた。

広々とした河川敷には、一面に芝原と草原が広がり、春、浅川との合流点の河川林にはヤマザクラが咲き、クサノオウが黄色い絨毯のお花畑を作っていた。このような場所が他に日野市にどこにあるだろうか。しかし、今、その聖域が国土交通省自らの手により、礫河原再生工事の名の下、大きく変えてしまった。合流点の河川林は殆どが取り除かれ、そこは人工的な礫河原モドキの河原に変えられ、そこに生きていた無数の命が奪われた。それより上流の礫河原モドキの河原は、既にシナダレスズメガヤに被われた荒野と化している。そして、更に残された場所も同様な理由で同様な工事が予想される中、この地域にどのような昆虫類が生息しているのか、記録しておく必要があるものと考え、不十分な内容ではあるが、主だった幾つかの昆虫について書き残して置きたい。

河川敷のカミキリムシ

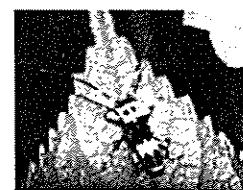
現在、日野市に90種類程(注1)のカミキリムシが記録されているが、その中で河川敷で見られる主な種類をあげると、まず、セスジヒメハナカミキリがいる。本来は奥多摩、高尾山周辺等の比較的山地で見られる種類であるが、市内では2010年4月21日に多摩川河川敷で初めて記録し、低地のそれも河川敷から見つかったことは大きな驚きであった。現在、日野市より下流域には記録がなく市内でも貴重なカミキリである。幼虫は立ち枯れ等の樹皮下を食することから、今回の工事により発生地の河川林がなくなった事で、大きな影響を受けたことは間違いない。4月末から5月上旬にクワ、エノキの花に集まるが数は多くない。また、高水敷の土に被われた礫河原にはオトコヨモギが多く、4月中旬から7月にキク科植物の害虫キクスイカミキリが多い。堤防沿いに多いカラムシの葉には、5月中旬より7月にかけて、緑色の美しいラミーカミキリが見られるが、本来は南方系のカミキリで、温暖化により北上して来た種類である。クワの木には、8月、現在市



セスジヒメハナカミキリ
2012.4.28



キクスイカミキリ
2010.6.13



ラミーカミキリ
2010.6.9



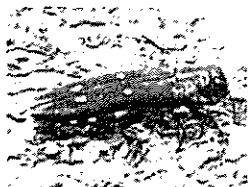
トラフカミキリ
2014.8.24

内では殆ど見ることがないトラフカミキリ(準絶滅危惧種NT)の記録(注2)もあり、かつて養蚕が盛んな頃には、クワの害虫として知られていたが、現在、クワの木が殆ど見られなくなった中で、河川敷にあるクワの木で細々と生息している貴重なカミキリムシである。

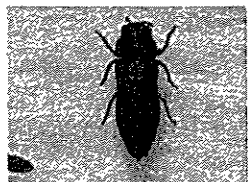
河川敷に多いタマムシの仲間



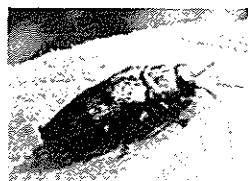
ムネアカナガタマムシ
2014.5.14



シラホシナガタマムシ
2014.5.14



カラカネチビナカボソタマムシ
2013.6.30



マスタクロホシタマムシ
2010.5.25

タマムシの仲間は日本に230種類ほどが知られているが、日野市内に41種類(注3)程の生息を確認している。その中で、ヤマトタマムシ(一般にタマムシと言われている)の様な大型の種類は、市内では他にウバタマムシ(絶滅危惧種NT)がいるくらいで、他は数ミリから15ミリ程の小さい種類である。河川敷では今のところ、その内19種類を記録しているが、タマムシは種類ごとに集まる木の種類が決まっており、多くの種類は4月末から8月にかけて見られ、エノキにはヤマトタマムシ、シラホシナガタマムシ、ヒシモンナガタマムシ、ムネアカナガタマムシ、アサギナガタマムシ、ベニナガタマムシが集まり、クワにクワナガタマムシ、ネムノキにネムノキナガタマムシ、ケヤキにヤノナミガタチビタマムシ、ヒメコウゾにコウゾチビタマムシ、コゴメヤナギにヤナギチビタマムシ、ムクノキにマルガタチビタマムシ、クズにクズチビタマムシ、ナワシロイチゴにヒラタチビタマムシ、オニグルミにカラカネチビナカボソタマムシ、フジにシラケナガタマムシ、シナダレスズメガヤにはホソツツタマムシとクロケシタマムシ、そしてヌルデにマスタクロホシタマムシの記録もある。その中で、ベニナガタマムシ、カラカネチビナカボソタマムシ、ホソツツタマムシ、クロケシタマムシは今のところ河川敷のみの記録である。

河川敷特有のチョウとガ

日野市内で、ここ5年程の間に72種類(注4)のチョウの記録があるが、その内で河川敷では38種類程を見る事が出来る。その中で主に河川敷のみで見られる種類はミヤマチャバナセセリ、ギンイチモンジセセリ、ウラゴマダラシジミ、そして最近見られる様になったコムラサキである。かつては、シルビアシジミ、ミヤマシジミ、アサマイチモンジ、ツマグロキチョウの記録があるが、現在は絶滅して見る事はない。ミヤマチャバナセセリは本来山地性のチョウであるが、幼虫の食草のチガヤ、ススキ等が多い河川敷沿いに分布を広げて来て様である。ギンイチモンジセセリもススキ、チガヤ等を食草とすることから河川敷で見える事が出来るが近年非常に少なくなってしまった。両種とも春夏と年2回の発生である。ウラゴマダラシジミはかつて多摩丘陵等の丘陵地でも見られたが、開発により幼虫の食草のイボタが少なくなり、現在、イボタの多いこの地域のみで見られチョウで、イボタを保護しなければ、日野市内では絶滅の可能性はある。コムラサキは従来市内での記録は殆どないが、近年分布を広げて来たようで、幼虫の食草のヤナギ類の多い河川敷で見られる。年2回、5月下旬から6月と8月頃に発生するが数は少ない。その他、ジャノメチョウは丘陵地のススキ原でも見られが、河川敷のチガヤ、ススキ原に多い。

また、日野市内では1000種類以上(注5)のガが記録されているが、その中で、河川敷で見られる昼飛性の種類について幾つか述べて見る。



ウラゴマダラシジミ
2012.6.3



コムラサキ
2104.6.19



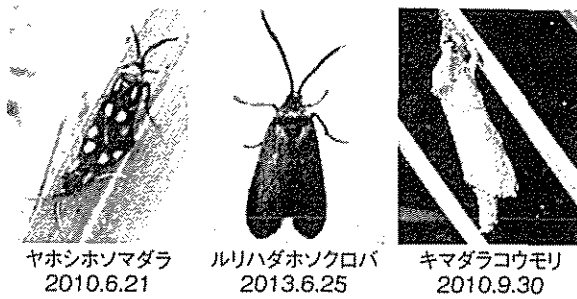
キンイチモンジセセリ
2014.7.14



ミヤマチャバナセセリ
2014.7.14



キハダカノコ
2012.6.29



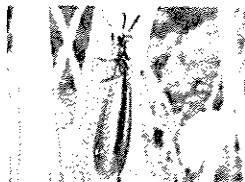
ヤホシホノマダラ
2010.6.21

ルリハダホソクロバ
2013.6.25

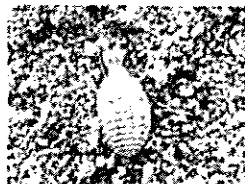
キマダラコウモリ
2010.9.30

その一つ、キハダカノコは、現在、多摩川流域では日野市の河川敷のみに知られている貴重な種類で、6月下旬より7月上旬に河川林の周りに広がるチガヤ原で見る事が出来る。腹部がオレンジ色で良く目立ち夕方に群れ飛ぶ姿は美しく、また、ヒメジオンに吸蜜に集まり数も多い。8月から9月にも発生するが数は少ない。ヤホシホノマダラも河川林の周りに広がるチガヤ原で6月頃見られるか、数は非常に少ない様で一度交尾している個体を見たのみでその後確認をしていない。また、ルリハダホソクロバという、腹部や翅がルリ色で金属色の美しいガも、やはり6月頃、オギ、ススキ原で見られるが数は多くない。キマダラコウモリは最も原始的なガと言われ、体や翅が茶褐色で、9月頃の暗くなった夕刻、河川林の周りを複数が飛び交う姿はまるでコウモリの様で不気味である。

特異なウスバカゲロウの仲間



クロコウスバカゲロウ
2013.6.25



幼虫のアリジゴク
2014.3.26



カスリウスバカゲロウ
2013.6.30

ウスバカゲロウの仲間は日本に17種類が知られているが、日野市ではその中で、5種類の生息を確認している。ウスバカゲロウ、コウスバカゲロウ、ホシウスバカゲロウ、クロコウスバカゲロウ、カスリウスバカゲロウの5種類で、その中で河川敷ではク

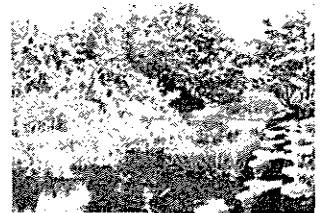


ツノトンボ
2014.7.14

ロコウスバカゲロウ、カスリウスバカゲロウの2種類を記録しており、

今のところこの2種類は河川敷以外では見つからない。ウスバカゲロウの幼虫はアリジゴクと言われているが、クロコウスバカゲロウのアリジゴクは河川敷の砂地に丸いすり鉢型の巣を作り、巣に落ちる昆虫などを食べて育ち、成虫は河川林の周りの草地で6月頃から10月頃まで飛ぶ姿を見るが数は少ない。ウスバカゲロウより一回り小さく、体色や脚の色で区別がつく。カスリウスバカゲロウは非常に少ない種類の様で、成虫は2013年6月に一頭を記録したのみである。幼虫はすり鉢型の巣を作らない為、幼虫のアリジゴクはどこ潜んでいるが分からず、まだ見ていない。

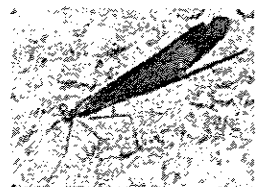
また、同じ仲間にツノトンボがいるが、成虫は7月頃から9月頃まで河川林の周りのチガヤの原で見られ数も多い。幼虫は巣を作らず探すのは難しいが、枯れた植物の茎に産み付けられた卵塊を8月頃見ることがある。



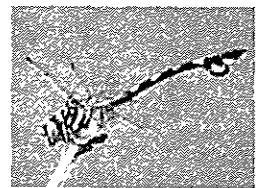
カワセミ池 2014.5.14

カワセミ池のトンボ

日野市内では、ここ5年の間に45種類のトンボの記録(注6)があるが、多摩川河川敷では20種類程を見る事出来る。クリーンセンター前の多摩川の土手を降りると、伏流水の湧きでた池がある。カワセミが多く見られることから通称カワセミ池と言われており、池の中にはミクリ、キショウブ等の水生植物が生え、多



ミヤマカワトンボ
2011.5.17



ウチワヤンマ
2011.7.13

くのトンボ類も見ることが出来る。4月中旬より、アジアイトトンボ、アオモンイトトンボが発生し、5月にはミヤマカワトンボの記録もある、6月頃よりアオイトトンボ、ハグロトンボが見られる様になり、7月に入るとギンヤンマが多く飛び、ウチワヤンマ(絶滅危惧種VU)の記録(注7)もある。コシアキトンボ、キイトトンボ(絶滅危惧種NT)も見ることが出来る。8月から9月にもアオイトトンボ、

アオモンイトトンボが見られ、夕刻に空を舞いながら虫をつかまえるギンヤンマを見ることがある。10月になるとオオアオイトトンボが見られ、アキアカネ、マユタテアカネが見られる。このような池は市内でも少なく貴重なトンボの生息地である。また、河川林の周りで4月にダビドサナエ、ホンサナエ（絶滅危惧種NT）、7月にオナガサナエ、ミヤマアカネ、ウスバキトンボを見る。

河川敷のバッタ類とウスバカマキリとマツムシ

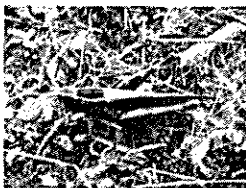
日野市では、15種類程のバッタ類を記録しているが、その中で河川敷で見られる種類にショウリョウバッタモドキ（絶滅危惧種VU）、カワラバッタ（絶滅危惧CR）、クルマバッタ（同CR）、クルマバッタモドキ、トノサマバッタ、セグロバッタ（同CR）、ツチイナゴ、ヒナバッタ等がある。成虫は7月頃より見られるが、その中でカワラバッタは名前にあるように、草の生えていない礫河原のみに生息する種類



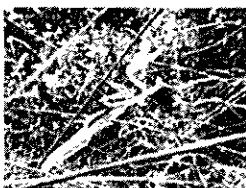
カワラバッタ
2013.8.7



クルマバッタ
2011.11.9



セグロバッタ
2011.11.9



ウスバカマキリ
2014.9.28

で、飛び立つと後翅の青紫色が美しく、決まって礫石の上に降り、草原に降り立つことはない。前翅は青味がかかった灰色をしており、礫の色と同調して見つけにくい。近年、河川の増水の減少により礫河原の攪乱が減少し、それによりコセンダングサやシナダレスズメガヤが繁茂し著しく個体が減少している。また、トノサマバッタ、クルマバッタも、草丈の低いイネ科植物の見られる芝原に多かったが、2年前の工事により、一旦はその場所が礫河原と化し、その後外来種のオオフトバムグラが一面に繁茂した為、著しく減少し、クルマバッタは昨年は一頭も見ることがなかった。セグロバッタは芝原とその周辺の子ガヤの草地付近で数

は少ないものが見られ、ショウリョウバッタモドキ、ツチイナゴ、ヒナバッタは多い。カマキリの仲間は、市内では5種類が記録されているが、その内ウスバカマキリは、多摩川中流域の草丈の低い草地で見られる河川敷特有のカマキリで、7月頃からその姿を見ることができ、体色は薄緑色と茶褐色の二つの型がある。河川敷の草地には他にコカマキリもいるが、ウスバカマキリの方が多く、晩秋に度々モズのハヤニエにされているのを見ることがある。また、河川敷には、夏から秋にかけてヒガシキリギリス、オナガササキリ、スズムシの他、多くの鳴く虫の声を聴くが、その中でも、浅川では殆ど聴かれなくなったマツムシ（絶滅危惧種CR）^(注8)が非常に多く、昨年9月17日の夜8時過ぎ、河川敷の子ガヤ原一帯が無数のマツムシの鳴き声に包まれていたことは大きな驚きであった。

以上、生態系保持空間内で見られる、幾つかの昆虫達についてお話をしましたが、これからも分かる様に、河川敷という特殊な環境の中で、河川敷特有の多くの昆虫達がいることがお分かりになったと思います。そして、これらは生態系保持空間という守られた環境の中で生き長らえてきた訳で、この環境を破壊するようなことが起これば、これらの昆虫達が多大な影響を受ける事は明らかなことであり、今お話した昆虫達が過去のものとならない為にも、日野市の財産である多摩川の自然を守って行かなければならないと切に思うのです。最後に日頃よりお世話になっております昆虫研究者・栗原桂一氏、貴重な記録の提供をして頂いた（有）むし社・中村裕之氏、ナチュラリスト・岩井満夫氏に紙面を借りてお礼申し上げます。

(注1) うすばしろ37号（西多摩昆虫同好会）の記録他10種類程記録

(注2) 2014.8.24 多摩川河川敷（万願寺）中村裕之

(注3) 日野の自然第505号

(注4) 日野市昆虫誌2013チョウ目（日野の昆虫調査会）

(注5) 野生生物の調査報告書1993（日野の自然を守る会）

(注6) 日野市昆虫誌2013トンボ目（日野の昆虫調査会）

(注7) 2011.7.13多摩川河川敷（石田）岩井満夫

(注8) 昨年は9月に浅川左岸ふれあい橋周辺でマツムシの鳴き声を多数聴く

行事の 報告

より鳥みどり観察会⑫ 『多摩川・浅川合流点付近・ 渡り前の冬鳥達と河原の春』

3月8日(日) 参加者：12名 担当者：○小久保雅之、村岡明代、藤田淳子 《日野市》

協力：NACOT(NACS-J自然観察指導員東京連絡会) 大出水幹男

コース 高幡不動駅→向島親水路→新井橋→浅川・多摩川合流点付近

この日は朝から雨が降ったり止んだりの天気でしたが、雨雲が切れるとの予報を信じ、開催を決定しました。小雨降る中でも、一般参加者8名、スタッフ1名が集まり、向島親水路に向けて出発します。雨はすぐに止んで、鳥たちも嬉しかったのか、お腹がすいたのか、次から次へと私達の前に現れてくれます。

向島親水路脇の電線に止まっていたコサギは、繁殖期になると目立つ2本の換羽が、まだ伸びきっていないのか長さが違います。新井橋からホオジロ、アオジ、ツグミ、カワラヒワなど観察しながら合流点に向かって歩いていくと、赤い鳥の群れが移動していくのが目に止まりました。ベニマシコです。この時期には繁殖羽となっていて、オスのピンク色が鮮やかでした。対岸の木に止まっていたオオタカは美しい成鳥で、参加者みんなで、その雄姿を堪能しました。

合流点では四谷橋の下にたくさんのカモ達が泳いでいるのを確認、こちら色鮮やかなマガモ、コガモ、ヒドリガモのオス、ちょっとシックなオカヨシガモのオスに各種のメス、カルガモもいて賑やかでした。

1990年代後半から減少していた浅川、多摩川のカモ達。今日も浅川の新井橋から多摩川合流点までは、ほとんどカモがいませんでし

たがたが、一番橋の下流ではコガモやヒドリガモ、ふれあい橋上流にはマガモが毎年渡ってくるようになりました。

四谷橋のカモ達を観察しながら多摩川水系にカモ達がなかなか観察できなくなっている今、これだけのカモの群れに出会えたことは嬉しい限りです。さらに種類も数も増えることを期待したいと思います。(小久保)

観察した鳥：カイツウリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、トビ、オオタカ、ノスリ、オオバン、イカルチドリ、イソシギ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、アカハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバド (計43種)



オオタカの成鳥



観察風景

奥多摩ウォッチング⑭ 『武蔵五日市駅・巨樹と歴史の道』

3月22日(日) 参加者：21名 担当者：○本條武志、山本 浩 《あきる野市》

思わぬ出会いに大喜びの日でした。

まず、カタクリ。まさかの場所。大きなケヤキの木がある斜面。木が切られて日当たり良好。なのにカタクリが、

「どうしてこんなに明るい南向きの所に」と疑問に思った参加者は多かったのですが…。しばらく行くと雑木林の中で点々とカタクリ。

「前は木がたくさん生えていて、北斜面とつながっていたからでしょうね」

次は、五日市に住む日野の自然を守る会の会

員さん。私たちが来るのを待っていてくれて、お庭のカタクリやアズマイチゲを見せてくれました。

「ヒオドシチョウも元気に翔んでいますよ」と教えてくれました。

そして大榎。あまりの堂々とした姿に皆さん圧倒されていて、私が葉を拾って、

「ウラジロガシですね」

と言ってもうわの空。

でも、大杉では少し余裕が出てきて、

「あまりに高くて先が見えませぬね」

「よく雷に打たれたり、たおれたりしないで残りましたね」などなど。

目を足元に向けると、アオイスミレ（スミレ科）が元気いっぱい咲いていて、ニリンソウ（キンポウゲ科）も咲き始めていたので、

「セントウソウはありますかね」

と言う参加者の言葉に答えるように、切り通しの岩の所に、たくさん咲いていました。ユリワサビ（アブラナ科）といっしょに。

日当たりの良い林道を歩くことが多かったので、キブシ（キブシ科）がよく咲いていて、

「キブシは、雄花と雌花、別ですよ」

うまいことに、近くに両方があり、花の中をよく見ると一目瞭然。皆さん納得でした。

納得と言え、担当の本條さんの話です。蚕室のある家の前でカイコの話 皆さん興味深く聞いていました。

もちろん五日市憲法の話も。特に作成に関わった人々が士族でない平民の民権家であったこと。条文のほとんどが、基本的人権について触れ国民の権利保障に重きをおいたものだったことなど。感心することしきりでした。（山本）

観察会 植物・昆虫ウォッチング② 『春の日野歩き』 〈日野市〉

3月29日(日) 参加者:18名 担当:○長岡総子、森川正昭、関根孝子

前日から20℃以上の気温でこの日、東京の桜は満開。今回は日野台地の崖線に沿って歩いた。まず宝泉寺境内奥の日野緑地でカタクリを観察。マッチ棒より細い実生、3年から5年くらいの1枚葉がところ狭しと柵の外に進出し、歩くのに一苦労！花卉にWの濃い紫の模様をつけ下向きに咲く花は少し寂しげ。ナガバノスミレサイシンの花、出始めたキツネノカミソリ、ウバユリの葉が元気づけていた。エイザンスミレもわずかだが咲く。



春の妖精カタクリ



アズマイチゲ



アミガサタケ

神明神社の森はアブラチャンが満開。雌雄の株を花で見分け、足元のアズマイチゲの花にも目を奪われる。境内は一面ニリンソウの世界だ。目を凝らせば、ウラシマソウの花が糸を垂れている！奥には特有の香りを放つコクサギ。続く谷仲山にもカタクリはいっぱい。水路沿いにはセキショウやカサスゲの花が見られた。神明緑地の崖に立つ数本のヤマナラシの雌花序を観察していると、幹にコゲラが止まり、眼前で枝をつつき始めた。ヤマガラは昼食終わったのか交代で飛び去る。黒く匂い

の強いアミガサタケが多い野鳥の森公園を経て黒川清流公園へ。満開のソメイヨシノやケヤキにつくヤドリギ、キブシの雄と雌の花の違い、小さなヒメムズの中に潜む黄色い花卉などの観察を楽しんだ後、ジュウガツザクラ満開の清水谷公園の池でこの日の観察を終えた。見るものいっぱいの日野の春だった！（長岡）

崖線に残る自然は春爛漫。待ちかねたように越冬したキタキチヨウや羽化したばかりのスジグロシロチヨウが飛ぶ。カタクリは今が盛りと咲き、その横にウバユリの若葉が目立つ。きっとカタクリと名がつくカタクリハムシがついているに違いないと、ウバユリの葉を捲るとやはりいた。鮮やかな紅色のカタクリハムシがついている。予想が的中、皆を呼び止めルーペで観察。春に出るトラフ模様のトラフコメツキも葉上に止っている。ケヤキの樹皮下に越冬中のヤノナミガタチビタムシを見つけ、カナムグラの新葉にキタテハの1mm程の小さな卵、共にルーペで観察する。谷仲山の水路に初夏、ゲンジボタルが見られるとか。もしかしたら、5月頃、カサスゲの花に赤・青・金に輝くスゲハムシもいるかもしれない。楽しみがまた一つ増えた。（森川）



カタクリハムシ



キタテハの卵を観る

日野の自然・自然だより

- 気 象 4月8日…… 朝から雪で昼までに止む、雨に変わり積雪とならず。…………… (高橋英昭)
 野 鳥 3月18日…… キジ1羽…………… 浅川河川敷 (新井) …………… (森川正昭)
 4月6日…… ビンズイ1羽 水路に降りる…………… 東豊田緑地保全地域 …………… (金子凱彦)
 4月6日…… ヒバリ複数囀る…………… 多摩川河川敷 (石田) …………… (森川正昭)
 4月13日…… ツグミ10羽 芝生でせっせと採食…… 日野市役所前の中央公園 …… (金子凱彦)
 4月16日…… アオゲラ複数見る…………… 多摩川河川敷 (石田) …………… (森川正昭)



キジ



ヒバリ



ソメイヨシノ



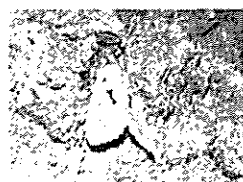
テングチョウ



アオゲラ



サカハチトガリバ



アカバキリガ



ヤナギチビタマムシ



コヤツボシツツハムシ

- 昆 虫 3月27日…… サカハチトガリバとアカバキリガ…… 平山城址公園 …………… (森川正昭)
 3月31日…… テングチョウの産卵…………… 程久保 …………… ()
 4月6日…… ヤナギチビタマムシとコヤツボシツツハムシ… 浅川河川敷 (石田) …… ()
 植 物 3月23日…… ソメイヨシノ咲く (東京サクラ開花日) …… 大木島自然公園 …………… ()

＝会の動き＝

- 大木島自然公園の手入れ
 - 3月9日 (月) …… 園内清掃、野草園の除草、倒れた杭打ち。市の職員が見えて朽ちた杭の確認。…………… 参加者7名
 - 3月23日 (月) …… 園内清掃、野草園のソクズ、ヒガンバナの整理、ソメイヨシノ開花。…………… 参加者6名
- 会誌513号の折り込み、発送、配付作業等 4月1日 (水) …………… 参加者7名
- 幹事会 多摩平の森 2階会議室 4月4日 (土) …………… 参加者8名
- 3月末現在 入会3名。退会2名。
- 編集委員会 3月10日(火)…参加者4名 3月16日(月)…参加者4名
- 観察会等
 - 3月8日 (日) …… 観察会「多摩川、浅川合流点付近 渡り前の冬鳥達と河原の春」… 参加者12名 [0名]
 - 3月22日 (日) …… 観察会「武蔵五日市・巨樹と歴史の道」…………… 参加者21名 [0名]
 - 3月29日 (日) …… 観察会「春の日野歩き」…………… 参加者18名 [0名]
- 大木島自然公園の手入れ予定 毎週第2第4日曜日、午前、雨天順延。現地集合、解散。
5月11日、25日。6月8日、22日。7月13日、27日。
- 前号の訂正 P8 行事予定 5月6日 南平丘陵講演を南平丘陵公園 に訂正。

情報・投稿・入会・問い合わせ・ご意見
お待ちしております

送り先：日野の自然を守る会

◎編集委員会 E-mail: hensyu@hinonoshizen.sakura.ne.jp
 ◎事務局 TEL: 042-582-0696 FAX: 042-582-0698
 E-mail: mamorukai@hinonoshizen.sakura.ne.jp